

# 細胞などで安全性試験

## 化粧品の動物実験禁止で代替法へ



資生堂と花王が共同開発した皮膚感作性試験の代替法「h-CLAT」のテストの様子＝横浜市の資生堂リサーチセンター

化粧品の安全性を調べるために行われる動物実験。動物愛護の観点から2013年3月には細胞やコンピュータ

による代替法試験の開発に注がれている。日本でも資生堂は細胞やコンピュータ

は、新規成分や添加物の試験データを厚生労働省に提出しなければならぬ。試験のうち動物実験は、ウサギに化学物質を点眼して角膜などの状態を観察する眼刺激性試験、モルモットに皮下注射などをしたアレルギー反応をみる皮膚感作性試験など複数ある。



## 資生堂 花王 実用化へ共同開発

王(同)が14年かけて共同開発した代替法が国際標準の試験として認められるなど少しずつ成果が出てきた。化粧品のうち美白、しわ改善などの効能をうたう医薬部外品の製造販売認可を得るに資生堂と花王は03年、皮膚感作性試験の代替法として、ヒト由来の細胞に物質を振り掛け

いる動物実験を行っていない表示が付いた化粧品。国際社会では代替法開発に力が注がれている。

は、新規成分や添加物の試験データを厚生労働省に提出しなければならぬ。試験のうち動物実験は、ウサギに化学物質を点眼して角膜などの状態を観察する眼刺激性試験、モルモットに皮下注射などをしたアレルギー反応をみる皮膚感作性試験など複数ある。

法として、ヒト由来の細胞に物質を振り掛け、反応をみる「h-CLAT」を開発。h-CLATは国際審査を経て16年7月に経済協力開発機構(OECD)のテストガイドラインで済み、低コストで正確、迅速にできる試験(両社)という。h-CLATを開発した資生堂リサーチセンターと安全研究開発室の足利太可雄主任研究員は「代替法は化学物質全般の安全性評価にも応用できます」と話す。特に皮膚感作性試験は最も多く動物を使うため、欧州の代替法法の確立が難しいなど課題はあるが、日本は世界に誇れる開発力を生かし、研究、実用化を着実に進めていくことが重要です」と語っている。



カキ豆腐